

シイタケ産業活性化のための省力栽培技術の開発

長野県林業総合センター 特産部 片桐一弘

背景・目的

【原木栽培】生産者の負担となる**封ロウ**を**省略した栽培技術**を確立する

【菌床栽培】**ビン栽培**化により効率的な栽培技術を確立する

結論

【原木栽培】封ロウ省略栽培への適性が高い品種を明らかにした

【菌床栽培】栽培期間を短縮し回転率を上げると高収量になる可能性が示された

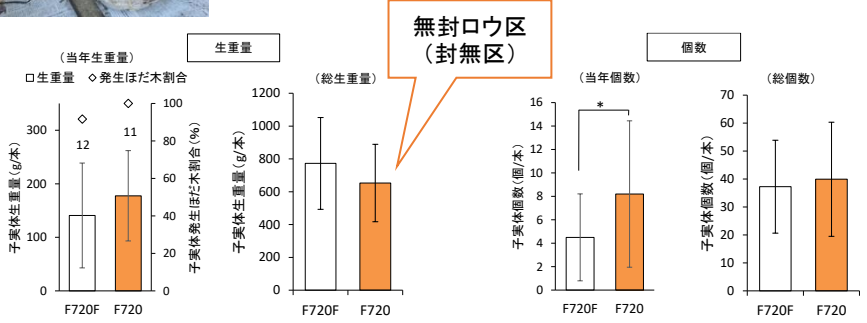
原木栽培

(封ロウ省略栽培)

生シイタケ栽培の流れ



試験の方法[穴あけ]原木1本当たり平均46箇所[接種]手動式オガ植菌機(商品名:楽太郎, 秋山種菌研究所製)[封ロウ]ホットプレートで溶かしたロウを自作のタンポを使用し塗布(封有区)。無封ロウ区(封無区)も設定[浸水発生]12~24時間浸水槽に浸漬後、発生室内で子実体を発生。初回は**植菌当年の9月下旬**に行い、**2回目からは翌年以降の2年間に実施し、総回数は7回**[収穫調査]菌傘が8~9分開きとなったものを基準として収穫し、試験区毎に個数と生重量を測定



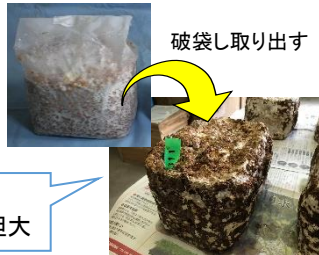
結論

封ロウを省略しても、封ロウした場合と同等の子実体生重量及び数量が植菌当年に得られる品種があり、それらの品種のうち総発生量においても、封ロウの有無による差が見られなかった菌興702、富士F720、森与一丸の3品種は封ロウ省略栽培の適性が高いと考えられた。

菌床栽培

(高収量・短期栽培)

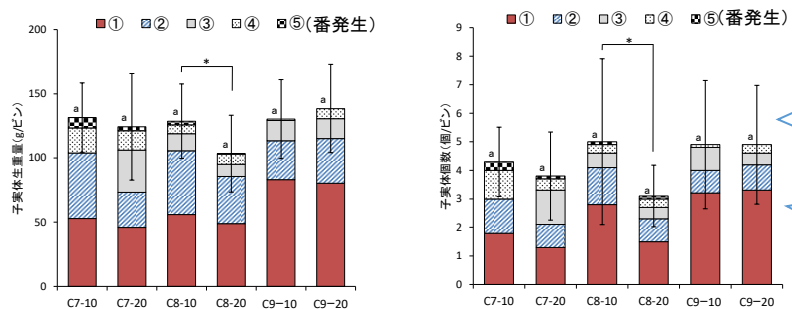
【現在】袋栽培
⇒手作業多く負担大



- ・長野県はエノキタケやナメコなど、ビン栽培に慣れた生産者が多い。(既存のビンも利用できる)
- ・そこで、袋栽培よりも機械化が容易で、効率的な**ビン栽培技術の開発**をめざして試験研究を開始



試験の方法[種菌]千曲化成チクマッシュCS202[培地]おが粉:フスマ=10:2(容積比)。含水率67%[ビン詰め]ナメコビン、530g/ビン[培養]19~20°Cに設定。培養期間は、75, 84, 93日間の3区分とし、それぞれ28日目にアルミ箔でビンを被覆し、培養終了日の21日前から室内の蛍光灯を24時間連続点灯[発生]15~16°Cの発生室にて一番発生の子実体発生量調査を行い、発生が途切れた培地を試験区毎に室温20~21°Cの部屋へ移し、**10日又は20日間休養**した後、再び15~16°Cの発生室へ戻し子実体発生量調査を行った(二番発生)。この後、休養と発生を3回繰り返す、五番発生まで調査を行った。N=12



75日間培養でも、十分な子実体発生量を得られ、休養期間も、10日間で発生量が多くなる傾向

二番発生までに総発生量の7~8割の子実体発生量

結論

菌床シイタケのビン栽培では、培地重量に対する子実体発生重量の割合は袋栽培には劣るものの、栽培期間を短縮し、回転率を上げることにより、全体の収量を高める可能性が示唆された。

連絡先: 長野県林業総合センター 特産部 片桐

TEL 0263-52-0600

E-mail ringyosogo@pref.nagano.lg.jp